

# 宝寿の風

第9号  
発行者  
宝寿院住職  
田辺信雄  
TEL.62-5739

いじめごわい

宝寿院住職 田辺信雄

檀家のみなさまには、日頃より宝寿院ならびに宗門の護持発展のために、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、今年は冬季オリンピックが韓国のピョンチャンで開催されました。

日本選手団の主将を務めた小平奈緒選手は、「百花繚乱」を目標に掲げましたが、その目標通り、日本の冬季オリンピック史上最高となる13個のメダルを獲得し、自らも金銀2個のメダルを獲得するなど大活躍



平成30年3月25日撮影

して、その百花繚乱の活躍ぶりは、多くの日本人に元気と喜びを与えてくれました。一方、今年は寒い冬が終えると、温かい春の陽気が一気に訪れて、当院の境内にも、しだれ桜、ソメイヨシノ、椿、カルミア、水仙、スズランなど色とりどりの花々が、例年より早く咲き始めています。まさに百花繚乱の感があります。当院参詣の折りには是非お楽しみください。 合掌

## 庚申堂境内を整備中

寄木戸字山王にある庚申堂は、当院の付属仏堂の一つで、毎年旧暦の10月16日に例大祭を行っています。

今年も、本尊の石製青面金剛明王像建立からちょうど300年、現庚申堂建立から120年の節目に当たります。

当院ではこの勝縁に因んで、現在庚申堂境内を整備中です。お堂の建つ境内敷地の北側約半分を現在の地盤の高さに整地し、南側の約半分は西側と南側に接する道路面と同じ高さにして舗装し駐車場とする予定です。境目にはコンクリートで土留めをするため、お堂は一段高い所に階段で上るようになります。



平成30年3月25日撮影

この庚申堂については寺便り4面に詳しく記載してありますが、昔から願掛けするとイボが取れることで知られています。

また、大泉かるたに

「願い叶える いぼとり庚申」とあることから、最近ではたくさんの方が参詣するようになりました。四月中に完成予定ですので、是非お参り下さい。

なお、今年の庚申講例大祭は11月24日(土)の午後4時から実施予定です。

## 檀信徒研修旅行に参加して

峯崎 弘子

十月二十三日、台風直撃の朝、いそいそと宝寿院へ。待ち遠しい思いでこの日を迎えるも、♪はじまりはいつも雨降り♪

バスの中では、嵐を呼ぶ男がいるとかいないとか(笑) 和やかに賑やかにバスは走り、やがて、富士山が大きく見える頃には台風一過の青空に。最初の鈴虫寺へは、ぎりぎりの到着でしたが、書院で鈴虫の音色を聞きながらの説法は、我が身を振り返り、大切なものは何かを改めて思う心温かいものでした。その後、増水した桂川を渡り、宿泊地の京都嵐山・渡月亭へ。

二日目は天竜寺参拝、嵯峨野竹林散策、聖護院参拝・ご祈祷。寄木戸不動尊ゆかりの修験宗総本山聖護院は、過酷な修行で有名な山伏のお寺と知りました。

それから清水寺参拝、そして待望の比叡山延暦寺へと向かいましたが、改修中の根本中堂は、残念なことに台風による停電で、暗闇の中での参拝でした。この日は雄琴温泉に宿泊。目の前にきれいな琵琶湖が広がっていました。

三日目は、女城主井伊直虎ゆかりの国宝

彦根城を訪れ、その後は一路大泉へ。この三日間、京都の由緒ある寺院参拝で、心穏やかにたくさんの方々との親睦を深め、楽しい時間を過ごすことができたことを心から感謝しています。



## 摩訶不思議なおはなし 第四話

今から約40年ほど前、私が教員になりたての頃の出来事です。私は、その日の仕事を終え、車を運転して帰宅途中でした。交通量が多い通りでしたので、ライトは下向きにして走行していました。暗闇の中、突然目の前にリヤカーが見えました。一瞬、何でこんな時間に、しかもこんな大通りにリヤカーを引く人がいるのか信じられません。追突寸前で急ブレーキを掛け、タイヤはロックしましたが、何とか対向車線に避けることができました。すると今度は、対向車が目前に迫り、正面衝突が避けられない状況でした。もうダメだと思いましたが、運良く、その場所は対向車線が外側に膨らんでいて、対向車が避けてくれました。後続車もあるので、今度はタイヤがロックしたまま、左に急ハンドルをきったところ、正面に電柱があり、今度こそ電柱に衝突すると諦めました。

しかし不思議なことに、とっさに右ハンドルをきいたら、何と左側走行車線に真っ直ぐに戻ることができました。時間にして、せいぜい3秒程度のことだったと思います。まるでキッネにつままれたような奇跡的な出来事でした。

今では、あれはきっと先祖や仏様が守ってくれたに違いないと思っています。 住職体験談

### 平成三十年年回表

一周忌	平成二十九年
三回忌	平成二十八年
七回忌	平成二十四年
十三回忌	平成十八年
十七回忌	平成十四年
二十三回忌	平成八年
二十五回忌	平成六年
二十七回忌	平成四年
三十三回忌	昭和六十一年
三十七回忌	昭和五十七年
四十三回忌	昭和五十一年
四十七回忌	昭和四十七年
五十回忌	昭和四十四年
百回忌	大正八年

※法要の申し込みはお早めにお願ひします

### 平成二十九年度 寄進者ご芳名

昨年度中に檀信徒の方々より、ありがた  
いご寄進を頂きました。

- 一、石製外置灯籠一基 服部和悦様
- 一、庚申堂塀解体工事 峯崎 寛様
- 一、庚申講大のぼり旗 護持会様

今までも、山門をくぐると左側に、石製  
の外置灯籠がありました。これは、平成  
二十年に故根岸ナカ様が奉納されたもので  
す。この度の御寄進により、右側にも灯籠  
が立ち、左右一対になりました。

この灯籠は、奈良の東大寺大仏殿正面に  
ある大灯籠を模したデザインで、大変格調  
の高いものです。夜間には電気照明を灯す  
ことができますようになっていきます。

また、庚申堂のブロック塀解体工事一式  
を御寄進頂きました。

庚申堂のある十字路は、今まで見通しが  
悪く、交通量も多いことから、交通事故が  
多発する大変危険な交差点でした。

この度のブロック塀除去により見通しが  
格段に良くなり、より安全な交差点になる  
ものと思ひます。

さらに、毎年行われている寄木戸庚申講  
例大祭の折りに掲げる大きなのぼり旗を御  
寄進いただきました。

庚申講は青面金剛明王を祀る寄木戸の伝  
統行事として江戸時代から続く信仰です。

今後は、この大きなのぼり旗を、年に一  
度の例大祭を飾るシンボルとして掲げ、賑  
やかな祭りになりたいと考えています。

### 宝寿院檀徒総代

総代長 坂本新一

副総代長 小沼唯二 服部和悦

会計 三吉靖典

総代 清水康司 坂本勝三

坂本昌司 峯崎 寛

襟川栄太郎 峯崎平弥

服部次男(新) 田村照美(新)

※長い間役員を務めて頂いた坂本陽氏  
と根岸浅雄氏が昨年度を以て退任されまし  
た。大変お世話になりました。

## 温故知新⑧ 寄木戸の庚申信仰

庚申信仰は、帝釈天の使者である青面金剛明王を祀る信仰として、平安時代以後、貴族や一般民衆に広まり、江戸時代になると全国各地で盛んに行われるようになりました。

庚申講の夜は庚申待ちと言って、寝ずに夜を明かしました。

これは、寝てしまうと三戸（さんし）という三匹の虫が体内から抜け出して、日頃の自分の罪過を天帝（帝釈天）に報告されてしまうとされたからですが、娯楽的な要素もあつたようです。



しかし今日では、こうした信仰は全国的にほとんど行われなくなってしまいました。

そのような中、当地寄木戸の庚申講は、戦後、庚申待ちこそなくなりましたが、絶えることなく今日まで受け継がれ、毎年旧暦十月十六日の満月の夜に行われ続けています。（平成23年から直近の土曜日に変更）

寄木戸の庚申堂は、不動堂・毘沙門堂とならば宝寿院の仏堂の一つで、本尊として祀られている青面金剛明王は、今からちようど300年前の享保3（1718）年に造立された立派な石仏です。

また、現在の庚申堂は、今からちようど120年前の明治31（1898）年に建立されたもので、庚申待ちのための拝殿を兼ねた立派な建屋を備えています。

御利益は、当初、**五穀豊穰、村内安全**などでしたが、後には、**家内安全、商売繁盛、子孫長久、悪疫退散**などへと広がりました。また、この庚申さまは、願を掛けるとイボが取れるという不思議な御利益があることで知られており、遠方からお詣りにくる方もいます。

青面金剛明王



作法は、まず庚申さまにお詣りをして、お堂にある砂を茶碗一杯ほど頂いて帰り、その砂でイボの箇所を軽くさすだけです。これを一週間ほど続けると、その後徐々にイボが小さくなり、やがて消えてなくなると言われています。（お詣りしただけで取れたという人もいます）

願いが叶ったらお礼詣りをしますが、その際には、持ち帰った分の倍量のきれいな砂をお返しするしきたりになっています。近年では、イボが取れるならと、癌が治る御利益を期待してお詣りする方もいるようです。

なお、この庚申堂は『大泉かるた』に「願い叶える いぼとり庚申」と読まれています。